

感染症流行期の冬季、年末年始を控え 警戒継続を

I 現状分析

1. 県内の現状

- 県内で9月以降5つのクラスター発生
- 「大人数の飲食」「夜の街」「家族・職場」で感染拡大
 - ・ 「第2波非常事態」宣言解除後、9月に2つ、10月に3つのクラスター発生、感染者は計114名（累計672名：10/28）
 - ・ 県指標は1つが超過（「新規感染者数」）
- 今後、感染症が流行する冬季、人出が多い年末年始
 - ・ 年末年始のリスク：初詣、親戚同士の飲食、成人式と2次会

2. 国内・世界の現状

- 国内の都市部は引き続き多数の感染者発生
- 世界ではむしろ感染拡大、欧州は最大級の警戒体制



引き続き警戒、感染防止対策の徹底を

Ⅱ 感染症流行期に備えた医療体制

1. 新型コロナ、季節性インフル両方に対応する「診療・検査医療機関」の運用開始（10月14日～）

- 計461医療機関で対応（10月28日時点）
- 「診療・検査医療機関」における最大検査能力：約9,000件/日（抗原定性検査等）

2. PCR検査体制の拡充

- 「地域外来・検査センター」の追加などPCR検査体制の強化
※1日当たり最大検査能力
【当初】40件⇒【現在(10/28)】982件⇒【年度内】約1800件

3. 「自宅療養者ゼロ」方針の継続

- 自宅、市中での感染拡大防止のため「自宅療養者ゼロ」を継続。
【病床は最大625床確保、宿泊療養施設は466床確保】

4. 季節性インフルエンザのワクチン接種

- 県内供給本数目安は102万人分（前年実績比約11%増）

Ⅲ 県民の皆さまへ

1. 高感染リスクの行動を回避

- 9月以降の県内クラスターは、閉め切った場所での
 - ・ 親戚を含む大人数や長時間の酒類を伴う飲食・パーティー
 - ・ 接待を伴う飲食店利用 を契機に発生。

また、全国的には、狭い空間での共同生活（寮生活など）や居場所の切り替わり（休憩室など）の場面でも発生。

⇒ 「大人数の酒類を伴う飲食」など高感染リスクの場の回避。

特に「マスク未着用」「大声を出し飛沫が飛び交う」行動は要注意。

2. 体調不良時は必ず行動ストップ！

- 県内で体調不良を押して飲食後、感染拡大した事例も発生。

⇒ 「体調がおかしい」と自覚したら、会食をはじめ外出、出勤、登校をストップ。

ただちに医療機関へ相談・受診。

3. 「マスク着用」「手洗い徹底」「人との距離確保」

○ 様々な感染症が流行しやすい、乾燥する季節が到来。

⇒ 感染症はみんなで守る危機管理。引き続き、基本的な感染防止対策を徹底。

⇒ 職場・家庭に対策の担当「コロナガード(仮称)」を選任・設置し、感染防止対策を緩みなく推進。

4. ストップ「コロナ・ハラスメント」宣言の徹底

○ 様々な啓発に加え、相談支援体制の強化やネットパトロールの実施

⇒ コロナ・ハラスメントを許さない環境づくりを。

また、実際にハラスメントを受けたり、見聞きした場合には、すぐに相談窓口にご相談。